

令和4年度競技力向上セミナー

『陸上教室』

開 催 要 項

- 1 目 的 多くのスポーツの基本となる動作である「走る」こと。その正しい「走り方」を学ぶことで、様々なスポーツの競技力向上を目指すとともに、こどもの体力・運動能力向上を図ることを目的とします。
- 2 主 催 別海町総合スポーツセンター
(指定管理者：一般財団法人別海町地域振興財団)
- 3 日 時 令和5年3月18日(土) 13時00分～15時00分
- 4 会 場 別海町町民体育館アリーナ
- 5 内 容
 - ・ケガをしないためのウォーミングアップ・ドリル
 - ・動きづくり
 - ・走り方など
- 6 講 師 **高橋 優太 氏** (高橋牧場)
美幌町出身
仙台育英高校→城西大学→エスビー食品→DeNA
中学時代は陸上競技とクロスカントリースキーとの掛け持ちをしており、陸上では全国中学1500m 2位、クロスカントリースキー5kmでは全国中学6位などの成績を残している。仙台育英高進学後は陸上に専念し、大学では世界ジュニア代表、2007年ユニバーシアード5000mで4位入賞した。2008年の日本インカレ5000mでも日本人トップの3位に入り、2010年は主将として東京箱根間往復大学駅伝競走のシード権獲得に貢献した。(Wiki 抜粋)
- 7 対 象 町内の小・中・高校生、スポーツ少年団指導者及び保護者
その他スポーツ関係者
定員：50名
- 8 参 加 料 無 料
- 9 持 ち 物 室内用運動靴、飲み物、汗拭きタオル
- 10 申 込 先 別紙申込書により下記へ FAX またはメールにてお申し込みください。
〒086-0216 別海町別海 141-10 別海町総合スポーツセンター(担当:菅原)
☎0153-75-2882 fax0153-75-0418
Eメール sports@betsukai-pf.or.jp
申込締切:3月13日(月)

11 その他

- ・イベント中の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策につきましては別紙をご覧ください。
- ・会場は暖房を入れる予定ですが、寒い場合もありますので暖かい服装でご来場願います。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府および関係機関の動向等によりイベントが中止となる場合があります。その場合は、当財団 HP で日程の変更、中止等の情報が確認可能です。
- ・イベント中に撮影した写真は、当財団 HP、ポスター等で使用することがあります。

陸上教室 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府および関係機関の動向等によりやむを得ず、イベントが延期または中止になる場合があります。その場合主催者側から連絡いたしますが、下記 URL より別海町地域振興財団のホームページにアクセスしていただくと日程の変更・中止等の情報が確認できるようになっています。

➤ 別海町地域振興財団ホームページ ⇒ <http://www.betsukai-pf.or.jp/>



当イベント開催中の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（令和3年2月15日）に基づいた感染予防対策を講じることとし、特に以下に掲げる対策の徹底を図るものといたします。

1 イベント前後を含めた適切な感染予防の実施

- イベント中、参加者の体調不良、または家族に新型コロナウイルスと診断を受けた者がいる場合のイベント参加は不可とします。
- イベント開始前（受付時）に参加者及びスタッフの体温測定ならびに体調を確認し、具合の悪い方、体温が高い（37.5℃以上）の方の参加は不可とします。
- イベント開始前後、イベント中も適宜手洗い・うがいができるような環境をつくれます。
- 手が触れる場所、共有物はアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含有したものでの消毒を適宜行います。

2 クラスタ（集団）感染リスクの高い状況の回避

- 換気の悪い密閉空間にしないよう、換気設備の適切な運転を行い、加えて2か所以上の窓を開け定期的に外気を取り入れる換気を行います。
- 飛沫感染を防ぐための徹底した対策を行う。（声を出す機会を最小限にする、声を出す機会が多い場合には、マスクを着用する）運動中のマスク着用は行いません。【スポーツ庁「学校の体育の授業におけるマスク着用の必要性について」（2020年5月21日）】
- 極力密集を避けることが可能な状況をつくる。（2m以上の距離を保つ）

3 感染が発生した場合、参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力

- 万が一当イベントの参加者及びスタッフ、関係者に体調不良者・感染者が出た場合には、その他参加者に対して確実に連絡を取り症状の確認、保健所などの公的機関に連絡が取れる体制を確保し、感染者と濃厚接触者となった場合には接触してから2週間を目安に自宅待機等が要請される可能性があります。